



OPECプラス、3月は減産維持へ その後緩和も ＝イラク石油相

[バグダッド 10日 ロイター] - イラクのアブドルジャバル石油相は10日、石油輸出国機構（OPEC）加盟国とロシアなど非加盟産油国で構成する「OPECプラス」は3月会合で現行の減産協定を維持する見通しだが、その後、原油価格が上昇すればサウジアラビアが日量100万バレルの自主減産を停止する可能性が高いと述べた。

記者会見で、2021年の原油価格は58—63ドルで推移すると想定。イラクの輸出量は平均で日量290万バレルになるとしたほか、クルド自治区がOPECプラスの減産協定を順守すれば、イラクの2月の産油量は平均で日量360万バレルになるとした。

また、全てが「正常」であればイランが石油市場に復帰する可能性があるとしたが、詳細は明らかにしなかった。

ウメモト インフォメーション

引用：日経／化学工業／燃料油脂／新聞展望／他（）

2021年2月12日

担当者：榎野

(第三種郵便物認可)

ENEOSホルムリンクスとしての期待が昨年高まった。「経営判断や執行のスピードをより迅速化する」として、ホルムリンクスとしての体制を整えつつ、業務的にはENEOSの一体運営を始めた。スロウダウンを始めた。スロウダウンを始めた。スロウダウンを始めた。

展望

2021
トップインタビュー

「競争力強化」という目標を掲げ、構造改革も加速させている。知多製油所（知多市）の停止も発表したが、これで終わりではなく、サブライチエーションの競争力強化は進めたい。

ENEOS

大田 勝幸 社長



競争力発揮へ構造改革加速

検討を継続しなければいけませんが、燃費改善の方向性は変わりません。燃費改善の方向性は変わりません。燃費改善の方向性は変わりません。

燃料油脂で成長の余地は多いが、将来は分らない。だから、もう一つ、燃費改善の方向性は変わりません。

「われわれが水素キャリア」として期待されています。水素キャリアとして期待されています。水素キャリアとして期待されています。

燃料油脂需要の構造的な減少と環境的圧力のなか、新たな総合エネルギー企業の変革を模索するENEOS。コロナ禍で燃料需要の影響が製造所の稼働率に与えるなか、現在の製造所資産の新たな活用策をいかに見いだすか。現在の中長期経営計画で掲げた石化・素材関連事業への成長投資1100億円の方向性を含め、次の一手が注目される。

(八重島)

ウメモト インフォメーション

引用 : 日経 / 化学工業 / 燃料油脂 / 新聞展望 / 他

2021 年 2 月 8 日

担当者: 権野

□「1. 足元の事業環境と中期経営計画の進捗状況は。」
 □「2020年度は化粧品、自動車部品など高付加価値分野の需要が停滞。原料価格の下落など環境メリットの恩恵は受け得たものの、銅昇利益の減少幅が上回ってしまった。コロナ禍の中計確定時には想定していなかったが、市況に左右されにくいポトフオリオ構築を自指す基本戦略に誤りはなかった。インキなど『オールドエコノミー』への依存度を継続して減らし、逆境に強いモノづくりにへの転換を推進して『N+1』
 □「3. 今年度の中計最終年展望。」
 □「昨年年度中計方針に

展望 2021 トップインタビュー

D I C

猪野 薫 社長



拡大していく」
 □「今年度第1四半期にはB.A.S.T.原料部門の買収が完了します。
 「自動車用高級塗料向け原料や無機顔料など、従来の当社になかったポトフオリオを導入し、1000億円以上の売り上げが加算される。初年度は安定供給を第一としつつ、当初からシナジー発現を自指す」
 「シナジーの眼目となるのはグローバルサプライチェーンを持つ両社の統合効果だ。地域性、原料からスケッチアップ品向け機能性顔料など、左右されない世界共通品目を流通させる特性上、

可視化された軽微ロジスティクスを駆使。当社が担う国内ビジネス、サンケイの欧米ネットワークを合わせ、真のグローバルプロダクツを供給する。世界市場の席巻が現実味を帯びてきた」
 □「次期中計以降の長期展望は。」
 「今年度中には『脱炭素』シナリ化』などを軸とする長期戦略をまとめた。次期以降の中計にこれに沿った内容とし、技術・製品面でも重要課題を明示。無機化、ハイオ技術などを新たに注ぎ加える」

ポトフオリオ転換さらに

「ポトフオリオを転換軸として入れ替えを実施は今後の継続する。すでに『低収益性』規模の利益が実現困難』将来展望が不透明』などの評価軸で事業撤退を定めて新分野への進出にあたり、コンゴロイレット、テラスカントを軸に

脱炭素化や循環型経済の実現を「不可逆的潮流」と見る猪野社長。「パッケージ分野ではリサイクル技術を中心にイノベーションが加速。最終的な解決策としてはケミカルリサイクルに落ちるだろう」との確信を深める。パッケージ素材の総合プロバイダーでもあるDICは、次期中計以降も同事業領域を含むポトフオリオ転換を強化。「環境対応など社会課題への対応の遅れは、いまや経営リスクの放擲と同義。不退転の臨む」。

「高付加価値分野の目」
 「高付加価値分野の目」
 「高付加価値分野の目」

ウメモト インフォメーション

引用 : 日経 / 化学工業 / 燃料油脂 / 新聞展望 / 他()

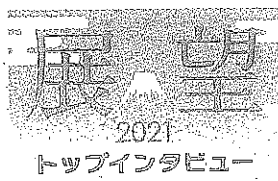
2021年2月8日 担当者: 榎野

□ 就任初年でコロナ禍に直面しました。

「インキ・化粧品・加工品の3事業とも影響が大変。広告や観光需要の激減と4〜6月期の自動車減産が主な要因で、オフセット・インクジェットインキも価格割などが苦戦した。ただ、近年開拓・販売に注力してきた製品群の成長もみられた。コロナ禍のなかでも軟包塗市場は堅調で、クラビテインキのうちライズインキの採用が増加した。一方で加工品事業では、水トロン工場の輸出が好調。真水精製工場の旺盛な需要向けに成長が

続々」

□ 中期経営計画の進捗は、「19年に入れ替えた基準システムやデジタルツールの有効活用と併せて



東京インキ

堀川 聡 社長



周辺領域拡大で成長を継続

全社的に生産性を向上。創造性の喚起を含めて仕事に没頭し、中間加工メーカーとして企業力アップを図る。

「中期計をレベラアップする方向で、移り変わるニーズに対応すべく柔軟性を備え、とくに成長戦略としての『周辺領域の拡大』は順調に進展しており、今後この方針を継続する」

「インキ・化粧品事業では環境対応パッケージ向け製品の拡充が欠かせない。生分解樹脂・バイオ樹脂・紙化・リサイクルの全方向で対応。軟包塗材用クラビテインキは紫外線(UV)硬化に加え、新たな電子線(EB)硬化型インキの開発などを加速する。加工品事業では地盤補強用土木製品の成長が著しい。すでに『災害復旧』から『防災・減災』へと転換したニーズの取り込みが成功。新工法の開発を強化していく」

「荒川塗料工業を子会社化しました。これも周辺領域拡大の一環で、プロダクトミックスを広げて対応できるニーズの幅を広げていきたい。同社は建築塗料を中心に水性品の開発技術を傾け、インキ分野のテーマの一つである水性化に向けたシナジー発掘を期待。21年はシナジーの掘り出しを持っていく」

「コンパウンダーとしてのニーズ対応は、品質は高レベル、メンテナンス性が高い。インキ系を中心とした塗料市場を中核とする。OASに期待する機能性付与の面で貢献し得る点も考慮しており、とくにコンパウンダー・コーティングの双方でシリコーン系を提案できる点で強みは発揮できるだろう」

「古くから手がける導電性樹脂などのニーズ拡大が見込めるほか、放熱性付与が関連テーマに繋がっている。今後は受託事業として、自社配合品の供給を含めて対応の幅を広げていくのが肝要。技術的な共通性の高いマスターバッチも併せて柔軟な事業展開を自指す」

「20年6月末に就任した堀川氏。貿易畑を長く歩み、全事業にわたる製品を取り扱った経験から自身を「なんでも屋」と表現する。89年以降、米国に都合10年強駐在するなど海外経験も豊富な。東京インキは国内事業を中核とするが、15年には新たな生産拠点としてタイ工場が稼働。「マスターバッチを事業の中心とするが、今後は高機能包材の市場拡大で機能性インキも求められていく」とし、着実な育成を図る。

「20年6月末に就任した堀川氏。貿易畑を長く歩み、全事業にわたる製品を取り扱った経験から自身を「なんでも屋」と表現する。89年以降、米国に都合10年強駐在するなど海外経験も豊富な。東京インキは国内事業を中核とするが、15年には新たな生産拠点としてタイ工場が稼働。「マスターバッチを事業の中心とするが、今後は高機能包材の市場拡大で機能性インキも求められていく」とし、着実な育成を図る。

「20年6月末に就任した堀川氏。貿易畑を長く歩み、全事業にわたる製品を取り扱った経験から自身を「なんでも屋」と表現する。89年以降、米国に都合10年強駐在するなど海外経験も豊富な。東京インキは国内事業を中核とするが、15年には新たな生産拠点としてタイ工場が稼働。「マスターバッチを事業の中心とするが、今後は高機能包材の市場拡大で機能性インキも求められていく」とし、着実な育成を図る。

「20年6月末に就任した堀川氏。貿易畑を長く歩み、全事業にわたる製品を取り扱った経験から自身を「なんでも屋」と表現する。89年以降、米国に都合10年強駐在するなど海外経験も豊富な。東京インキは国内事業を中核とするが、15年には新たな生産拠点としてタイ工場が稼働。「マスターバッチを事業の中心とするが、今後は高機能包材の市場拡大で機能性インキも求められていく」とし、着実な育成を図る。

(榎野)

ウメモト インフォメーション

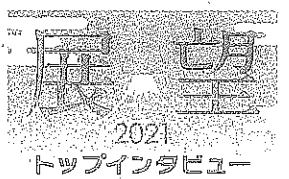
引用：日経／化学工業／燃料油脂／新聞展望／他（ ）

2021年2月10日

担当者：佐野

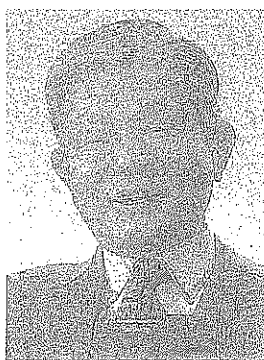
「コロナ禍のなかで2021年の見通しは、第1四半期（1～3月）はあまり期待できないが、第2四半期から世界のGDPも高い成長率を記録するだろう。そういう意味で21年は20年よりも経済環境は良くなる」とみていく。ただ、経済が回復するといっても19年水準までは期待できない。やはり本格的な回復は22年以降になるのではないかと」

「21年の注力テーマは、黒鉛電極事業の安定収益化だ。カーボンブラック事業は、米田進次郎社長が、米田進次郎社長とともに95%の稼働率を維持している。カーボンブラック事業の稼働率も、黒鉛電極事業の稼働率も、2021年10月



東海カーボン

長坂 一 社長



黒鉛電極の安定収益化重点

「1～6月納入が17億1000万円、7～12月が18億1000万円と、100%稼働率を維持している。また、黒鉛電極の稼働率は、2020年10月

「現在の時価総額400億円は納得していない。当社が黒鉛電極事業に力を入れているのは、カーボンニュートラルを推進する上で、黒鉛電極は重要な役割を果たしているからだ。また、黒鉛電極の稼働率を安定させることが、黒鉛電極のリードとなる。また、中長期的に欠かせない循環型社

「炭素化の流れのなかで、社名に『カーボン』を冠することが良いことなのか自問している」と長坂社長。社名のせいで投資家にネガティブな印象を与える可能性もあるのではないかと危惧し、社名変更も視野に入れているという。ただ、カーボン（炭素）自体は悪者ではない。同社が手がけるカーボンブラックなどの炭素材料は、CO2を直接利用した技術が実用化できれば、究極のCO2固定化技術になる可能性がある。カーボンを生かす会社であることを、もっとアピールすればよいのではないかと。

活性炭 クラレコール。
 活性炭黒鉛 クラクティブ。
 活性炭シート フラシート。

株式会社 クラレ